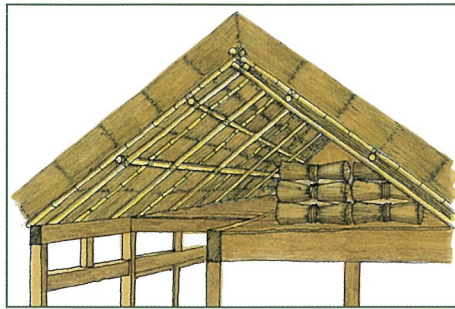




かやぶき民家のくらし

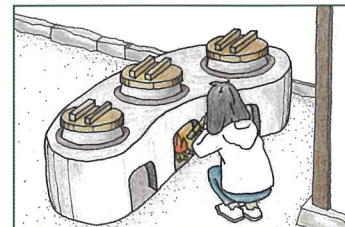


むかしの人はどのようにくらししていたのかを見てみよう!!



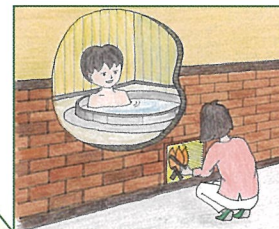
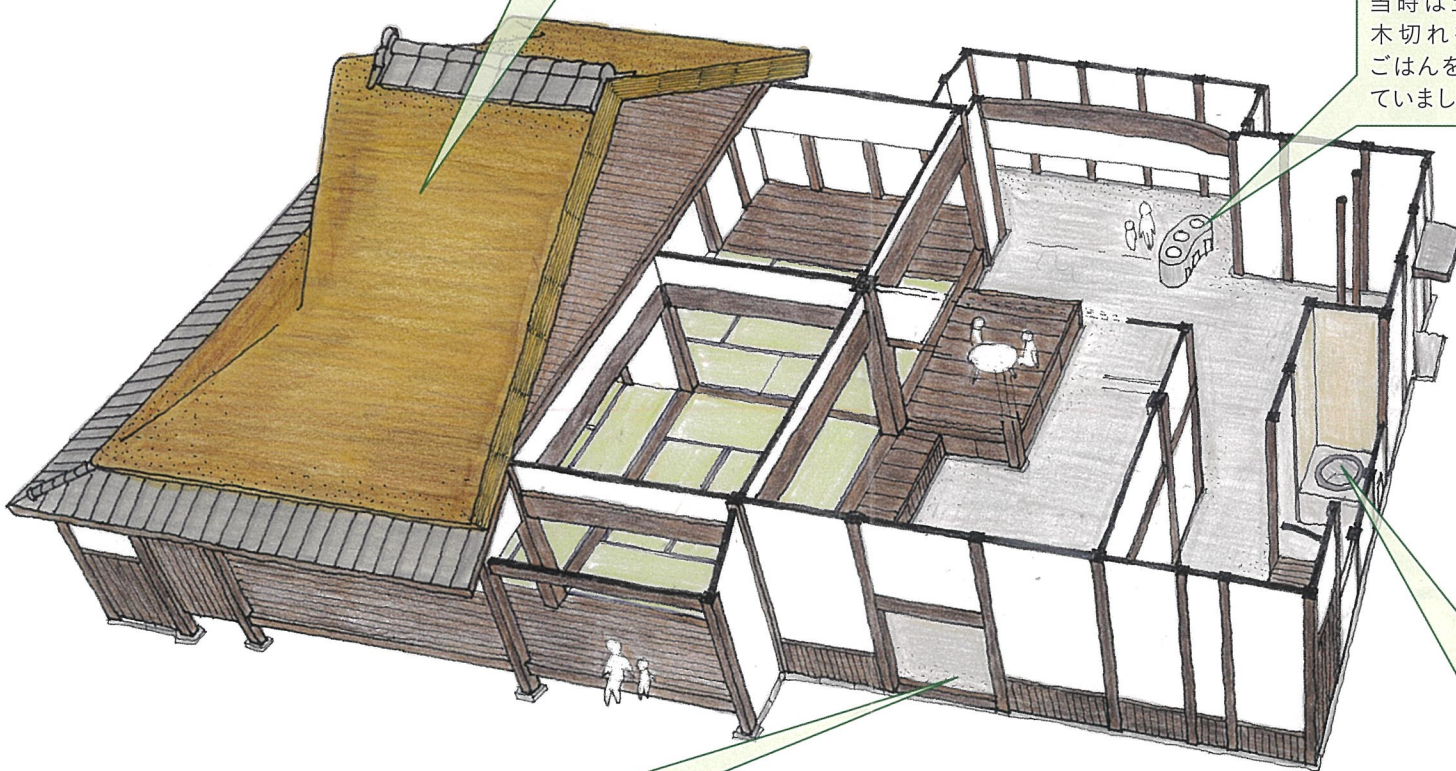
かやぶき屋根 (かやぶきやね)

かまどを使用する時に出る煙で屋根がいぶされることで、防虫効果や「かや」を結ぶわらの結び目を固める効果が得られ耐久性が高まりました。また、屋根は雨漏りを防止するために急勾配になっています。屋根裏には、補修用の「かや」をおいて、修理に使いました。通気性、断熱性に優れていますが、寿命が短い欠点があり、20年前後で葺き替えが必要になります。



土間台所 (どまだいどころ)

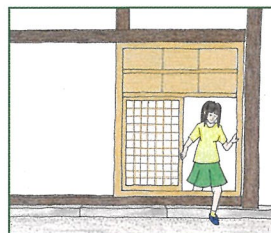
当時は土間にかまどがあり、木切れをくべて火をおこし、ごはんを炊くなど食事を作っていました。



五右衛門風呂

(ごえもんぶろ)

鉄の釜の下から直接薪などをくべて湯を沸かし、底板をふみ沈めて入ります。五右衛門風呂は薪の残り火や風呂自体の余熱で、湯が冷めにくいという特徴があります。

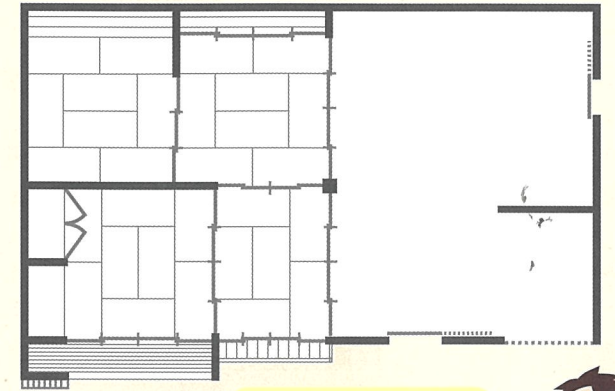


大戸 (おおど)

大きな引き戸のなかに小さな引き戸(くぐり戸)がある扉のことで。

長い時間大切に住まれてきたこのかやぶき民家は、時代とともに、住みやすいように改築が重ねられてきました。

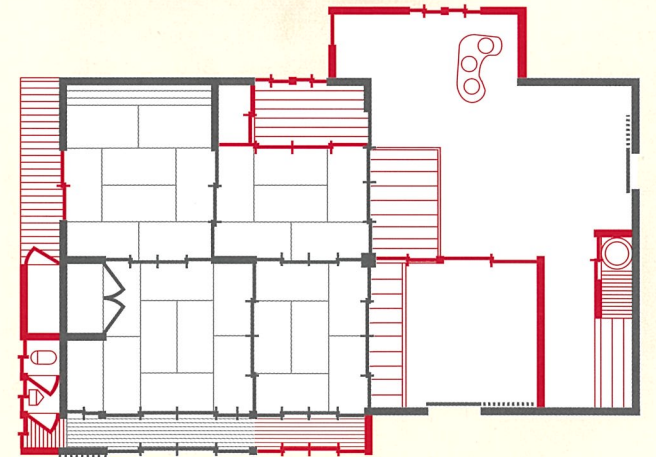
建築当初 18世紀 後期ごろ



この建物が建てられた頃は寒さをしのぐために窓が少なかったみたいだね。



20世紀 前期ごろ (昭和初期ごろ?)



※赤色の部分が住みやすいように改築された部分です。



ここに復原したものはこの時期のものなんだね。

この民家に関しては古い資料が残されていないため、歴史、学術的観点からは諸説あり、解釈が異なることがあります。